

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	制度改正により「地域住民との交流」が盛り込まれた中、独自の理念として「介護する人もされる人も心豊かに暮らせる地域社会を目指す」という理念の下日々のお世話を行っていきたくと思っている。	○	職員全員が理念の意義を理解できるよう、社長も含めた話し合いの機会を持つ。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	頭では理解できているつもりでも、理念を意識して働くのはなかなか難しい。	○	管理者は、理念やホームの日々の方針・目標を具体的に職員に伝え、話し合う機会を増やす。又、ミーティング等で常に、介護で最も大切にしなければならない事は理念である事を認識できるよう話し合う。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方へは、家族会議事、来訪された際、折に触れ理念が浸透していると思われるが、地域へはまだ確実とはいえない。敬老会時に地域との交流があり、その際に施設紹介で掲示をしたりして地域への啓発を行っている。	○	今後は敬老会だけではなく施設で夏祭りを計画したり、地域へ出向き、地域集会時や地域の行事などに参加しその中で伝えていきたいと思う。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に買い物や散歩に出かけ、近隣の人達や友人、知人達と挨拶を交わしたり話をしたりしている。	○	もっと地域へ積極的に出向いていき、祭りへの参加や近隣住民が気軽に何時でも事業所へ訪問できるような場を作っていこうと考えている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	慰問の方をお迎えして交流を図ったり、他の施設(南の太陽)に出向いて交流を図ったりしている。	○	地域で行われる行事へも積極的に参加し、交流の場をもっと増やせるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のさまざまな研修、会合に加わりながら認知症ケアの啓発に向けての参加をしているが未だ確立されていない。ボランティアの受け入れなどは行ってる。	○	市町村・地域の様々な研修、会合にかかわりながら認知症のケア啓発に取り組んでいこうと思う。又、救急処置法等も学んで、地域の方々の役にたてるよう努力したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価は全部とはいかないが職員と取り組むようにしている。また、自己評価結果はミーティングで報告し、具体案を改善に向けて検討、実践し外部評価を受けたいと思う。	○	第三者の評価を受け、実践していく事で、利用者、地域の皆様に貢献できる事業所となるよう育んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、サービスの状況だけでなく、施設サービスへの要望、助言の項目を設け、様々な意見を交換できるようにしている。また、とりあげられた検討事項等については、その経過を報告し合い、一つ一つ積み上げて行くようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営者、管理者は市町村へ出向き、市町村担当者と交流(事業所の考え、運営や現場の実情などを伝える場)の機会はあるものの、事業所へ出向いてきていただき、職員、両者との交流などはまだ確立されていない。協力や連携を図れる受け入れ態勢がありますとの助言を頂いている。	○	市町村担当者の方々に、もっとグループホームについての理解と協力を深めていただけるよう、ホームからの相談や交流の機会を設ける。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在事例がないため、一部分は理解している職員はいるが、理解していない職員もいる。そのため必要ときに支援できる体制が万全とはいえない。	○	勉強会を開き、職員全体に理解を深め、必要ときに支援できる体制作りを努めてたい。また、外部である研修などへも積極的に参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会を設置している。併せて月1回会議を行うようにしている。職員には会議への参加を呼びかけ欠席時は、会議録を参照している。日頃機会があるごとに職員への理解浸透や尊厳に向けた話をしている。	○	拘束とは何かについて、職員全員が理解、実践できるよう、繰り返し学んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分な時間を取り分かりやすく丁寧に説明している。説明の際一つ一つの項目を説明し終えた後に、理解できないところはないか確認しながら進めている。特に重要な点については詳しく説明している。</p>	○	初めての事で理解できない事も多いと思われる折に触れ説明していきたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>訪問時や連絡時に利用者の様子をお伝えしている。金銭管理については、金銭出納帳へのサインや領収書を請求時に合わせてお渡ししている。また、家族会時に入居者様の日頃の様子をビデオカメラに収め上映している。</p>	○	今後は、利用者のご様子を毎月のお便りとしてお伝え出来るようにしたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には来訪時や電話で問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望はミーティングなどで話し合い反映させている。</p>	○	ご家族にはご意見や苦情等、どんな事でも言っていただけるような雰囲気、環境を構築していきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、勉強会、カンファレンスを月1回は行うようにしている。また、日頃から職員とコミュニケーションを図るようにしている。</p>	○	表面化されない意見にも気がつけるような心配りをしているよう努めたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者のペースや状態に合わせたローテーションを組めるようにはなかなか調整できていない。</p>	○	状況の変化や要望に柔軟に対応できるような職員の確保ができるよう、経営者や職員との話し合いをしていく。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、離職を最小限に抑える努力をしているが、開設して間もない事もあり、職員の定着が難しい。</p>	○	職員が定着し、利用者が安心して生活できるよう、色々な側面から配慮していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	同市町村にある他のG H との意見交換や交流会等行いたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	他の事業所などと、交流、親睦が図れる場を作り気分転換や啓発の場を作りたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、ゆっくりと話を聞いた上で必要なサービスを提供できるように努めている。必要があれば他の事業所とも連携を取るようになっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらい事から始め、段階を踏みながら徐々に徐々に事業所に慣れてもらうような努力をしている。しかし、大半がやむを得ずすぐ利用になる場合ありその際は、安心感をもてるようご家族やこれまで係っていた関係者にきてもらう等している。	○	電話なども出来る限りかけてもらえるようお願いをしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思い喜怒哀楽を共感、理解し、お互いが共同しながら穏やかな生活が出来るように場面作りや声かけをしている。	○	本人から学んだり、支えあう関係作りがまだまだできていない。人生の先輩として係るということ、学んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事やきずきの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に家族と同じ様な思いで支援している事を伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を進めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。また本人の日頃の状態をこまめに報告、相談するようにもしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からのお友達の所へ遊びに行ったり、友人知人への電話など本人を取り巻く人や支えてきた人達との関係が途切れないような配慮に心がけている。	○	今後は、もっと個別援助を行っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごす場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了しても行事に招待する事や遊びに来てもらうなど継続的な付き合いが出来るよう心がけている。また家族との関係も継続できるよう相談などに乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用になる際、自宅に訪問したり、本人や家族、関係者などから、その人独自の生活暦やライフスタイル、個性や価値観などを聞き取るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握するよう努めている。また、できないことよりできることに注目し、その日と全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の係りの中で、思いやりや意見を聞き反映させる様にしている。職員全員、日頃より色々な意見を交換し合い、カンファレンスも行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者が情報を確認し、家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、また、状況が変化した際はその都度検討見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し食事量、排泄等の身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなどを記録している。何時でもすべての職員が確認できるようにしており、業務開始前の確認は義務づけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じて、通院などの必要な支援、入院された際早期退院の支援等は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努めている。また、近隣高齢者が状況に応じて体験利用を出来るよう体制を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生員、ボランティア等の意見交換をする機会は設けているもののその他の機関との連携がまだ確立されていない。	○	今後は、利用者の状況をお便り等でお伝え出来るようにしたい。警察や消防、文化教育機関とも意見交換や交流の機会をもうけ協働していこうと考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所以外のサービスと繋がられるように相談員や外部のケアマネジャーとの連携を図り支援を行うよう努めている。	○	限られた方とのやり取りとなっているので色々な事業所の相談員やケアマネジャーとの連携が取れるような活動を行いたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加して下さる為、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応している。かかりつけ医への受診は、職員が行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>かかりつけ医師に気軽に相談できる体制があり、相談し適切な指導を受けて加療中である。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>訪問看護ステーションとの連携を考えている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝の朝礼時、勉強会、ミーティング、申し送り時、職員の意識向上を図るとともに、日々のかかわりの中で注意し合うなど利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応に心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりなどして、本人が決める場面を作るよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調や状況に配慮し、本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行うよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意向で決めていただき、職員は必要などきに手伝うようにしている。	○ 自己決定がしにくい利用者には、本人の望む服装はどういうものかを、できないところは手伝いながら、本人の意思に添った支援を心がけていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けを、職員のみで行う場合が多い。	○ 利用者と一緒買い物に行き食材選びをして、調理、盛り付け、片付けも、利用者のその日の状況に応じて一緒に行く。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好を理解しており、本人の様子や時間を見ながそれらを楽しめるよう支援をしている。タバコについては利用はない。	○ 喫煙される方が利用された場合は、火元などの心配があるため、職員が預かり、本人の希望にそって他の利用者に迷惑が、かからないようさりげない見守りの中、換気のよい場所で喫煙できるよう配慮する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、その方、個々の時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事でトイレの排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は、職員の都合で決めている場合が多い。	○	職員が一方的に決めるのではなく、利用者が希望する曜日、時間に入浴いただけるよう配慮する。長く入浴されない方へは、その方とよく話をして、無理強いせず安心して入浴できるよう支援し、清潔保持に努める。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を配慮して、ゆっくり休息が取れるように配慮している。	○	自立度の高い利用者が多い為、もっと日中の活動の機会を提供していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや、餅つき、金柑漬け、切り干し大根作り、野菜作り、など利用者の経験や知恵を発揮できる場面を作っている。また感謝の気持ちや言葉を伝えるようにしている。	○	偏りなく役割や楽しみごとの支援を行っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出す事で社会性の維持に繋げており、家族の了解の下少額を手元に持たせている。また、家族からお金を預かり事業所が管理している人でも、外出、買い物時などのお金などは自分で払っていただけるようお金を渡すなどの工夫をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらう、心身の活性に繋がるよう日常的に散歩、買い物、ドライブなどに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方への外出は、予め計画を立てて職員の勤務を調整するなどして行ってる。また家族の協力を依頼する事もある。	○	1泊旅行なども行いたいと考えているが、なかなか現実の者とならない為、計画をしっかりと立て現実に出来るようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話し易い雰囲気作りや、職員からの声かけを行うようにしている。	○	自宅で電話を毎日掛けていた方は居室に携帯電話を持ち込み、いつでも家族との会話ができるような支援を行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族も親の家を訪ねるような気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。ご家族の都合のいい時間帯に、いつでも訪ねていけるような配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、月1回の全体会議の中で会議を開き身体拘束に関する勉強会や事例はないか検討している。マニュアルを作り、職員へ日頃より機会があるごとに周知してもらうよう話している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	何回となく行方不明になられた利用者がいらっしゃる為、玄関や居室の窓は施錠している。	○	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり一緒についていくなど、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録などの事務作業をしながら、さりげなく全員の状況を目配り気配りし、把握できるように努めている。夜間は数時間毎に利用者の様子を確認するとともに、施設の施錠確認を行っている。起きられたらすぐに対応できるよう居場所を工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全ての物を取り除くのではなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハット、事故報告書を記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合は、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について、ミーティング等で検討し、必ず家族へ説明と報告をしている。また職員へも検討内容を報告するように努めている。	○	事故の予防マニュアルを作成している。職員全体で常にかもしれないの推測を認識しながらケアするよう体制を築いて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルや感染防止マニュアル作成し周知徹底を図っている。	○	何1回は消防署の協力を得て、心配蘇生法や救急手当などの講習会を今後行おうと考えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者の公衆に行き、防火管理者を設置している。消防署の協力のもと避難訓練(昼、夜設定)等の指導を受けている。	○	今後は消火器の使用方法や、火災、地震、水害時の講習会を消防署に依頼し行っていこうと思っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクは高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしている事をご家族へ具体的に話をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い普段の状況を職員は把握している。少しでも食欲や顔色様子の変化が見られたときは、すぐにバイタルチェックを行い変化時の記録をつけそれぞれの症状に合わせて対応をしている。症状に応じては協力医療機関への受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケース記録台帳へ処方箋のコピーをファイルしており、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は、誤薬がない様に、予め透明のケースに利用者個々の名前がある所にそれぞれ小分けしておいてあり、二重に確認できるようにしている。また本人に手渡し服薬するまで確実に確認している。	○	服薬のミスが起こらないよう、繰り返し、周知徹底を行いたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や特におやつ時に繊維の多い食材を採り入れるようにしている。また、個々においてはお茶や漢方薬を飲まれている方もいる。排泄チェック表の活用で管理も行っている。	○	便秘の方には起床時、1杯の水を飲んでもらう等して排泄を促している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じて職員が見守ったり、介助を行ったりしている。必要な利用者には、入れ歯洗浄剤を使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の摂取量を毎日記録に残し、食事の内容は日々の業務日誌のほうに記載している。</p>	○	水分量のチェックはしていないので基準を確認、摂取できるようにしたい。今後は、カロリーや栄養バランスについても検討していきたい。
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>事業所内で起こり得る感染症について、感染予防マニュアルを作成し、職員がいつでも観覧出来る場所へ置き、また、全員で学習し予防、対策に努めている。</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>まな板や布巾、食器等は漂白をするなど清潔保持に心がけている。冷蔵庫や食材置き場も点検、掃除を行い、食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。</p>	○	台所や調理用具等の衛生管理を徹底していく。台所の掃除管理表を活用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>明るい雰囲気玄関になるように、玄関先にプランターを置き季節感を演出している。玄関内には悪臭をたちこめないよう換気をしたり、芳香剤を置くなどして、来客様へ不快な感じを与えないように努めている。</p>	○	職員全員が、気持ちよく出入りできる玄関を心がげるよう取り組んでいきたい。
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入り口カウンター、テーブルには季節の花などを置き、食事時になれば匂いが漂うなど五感や季節感を感じ取れるように意識的に取り入れている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファーや畳などを設置する事で自由な居場所を確保している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の好みや馴染みの物等を生活スタイルに合わせて用意していただき利用者様の居心地のよさに配慮するように努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の発汗の様子や冷えなどに注意して調節するようにしている。外気との温度差があるときは、フロー内温度・湿度計、を見ながら調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレなどの居住環境が適しているかを見直し、改善できるところは積極的に行っており、安全と自立への配慮に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの混乱を招くような環境の原因を追求し、本人の不安材料を取り除き、力を取戻せるよう状況に合わせて環境整備に努めている。	○	分かり易い言葉を使い表示している。(べんじょなど)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いたり車椅子の方も外の空気や景色を楽しめるようにしている。	○	施設周辺にもベンチや椅子を置き気軽に周辺の景色が楽しめるようにする。又、日陰が作れるよう工夫したい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いつも笑顔で笑いの耐えないホームを目指している。